

平成 30 年度法曹実務専攻 A 日程入学試験問題

問題 1

【出題意図】

自由社会には自由のほかにさまざまな価値が存在しときに強く衝突する。自由は最も大切な価値の一つであるが、なぜ、どのように守られるべきかについて筆者の見解を正しく読み解き、整理する能力があるかどうかを問う問題である。

【講評】

本問題は、自由社会における最も大切な価値の一つである自由が、特に平等との関係において、なぜどのように守られるべきかについての筆者の見解を正しく読み解き、整理する能力があるかどうかを問う問題である。文章の論理構造を正しく理解することは、その説に賛成するにせよ反対するにせよ、判断の前提となる行為であって、法律家としての基本的資質である。

設問 1 は、様々な価値意識を持つ人々が共同生活をしている中で、対立をせずに、「なんとか切り抜ける」ために行うべきことを筆者がどのように考えているかを問う問題である。その方策としては、引用下線部の直前に記載されている「異なる価値秩序をもつ人々の対立に対して、物理的な力でそれらの価値の衝突を解決するのではなく、それぞれの価値を尊重し合い、共存する意思を示しつつ知恵を出す最大限の努力をすること」を指摘できればよい。受験者の多くは、この論理を読み解くことができていた。

設問 2 は、自由と平等との対立はどのような場合になぜ生ずるかについての著者の見解を整理する必要がある。問題文の後半部分において、筆者の見解は、表現を若干変更しながら、数回繰り返し展開されているので、そのいずれかを指摘できればよい。

具体的には、「安全と秩序という価値と、自由（または精神的自由）という価値とが両立せず、自由の犠牲のもとに、自由よりもはるかに価値序列の高い『社会秩序』を確保するという政治体制が出現したことがあるから」とか、「国民のための国民による権力機構が、その国民を弾圧するという『全体の全体に対する圧政』という逆理に転じ、国民の自由が抑圧されたことがあるから」とか、「国民『全体』という独裁者が国民『全体』を圧制する全体主義が出現し、意識の領域を拡大するという意味の精神的自由が抑圧されたことがあるから」といった部分を整理して表現することになる。受験者の中には、問題文の全てを読むことなく、前半部分の記述に基づく独自の発想を書いたのではないと思われる解答があったが、筆者の見解を正しく理解するためには、筆者の論理を追いながら、問題文全体を読む必要がある。本設問の趣旨は、筆者の論理構造を正しく理解できているかどうかにあるのであって、解答者の思い込みや独断を問うているのではないからである。

問題 2

【出題意図】

長文を読み解き解答させることで、主として、受験生の読解力と文章整理能力を問う。同時に受験生の文書作成能力も問う。さらに、受験生の思考力と論理的に私論を展開する能力を問う。